



質問箱

問 わが家では、元旦には親の代から初詣に出掛ける神社が決まっています。毎年晴れ着を着て参拝し無病息災を祈ります。御利益の有無は分かりませんが、唯習慣で繰り返してきました。子どもが大きくなったら止めても良いでしょうか。

答 いつもは閑散としている神社に、正月三日間には多勢の参拝者が押しかける風景を見て、外国人が驚いています。日本人は本当に信仰深い民族なのでしょうが。宗教離れの日常生活の中で「祈る」という行為を喪失してきているため、せめて正月くらいは縁もゆかりも無い何処かの神社に行つて、一年分の祈りを済ませるのが一般的な日本人なのでしょうが。人間には動物には無い「祈り心」があつて、新しいことを始めるとき、人生の岐路立つ時、思いがけない困難や重い病に冒されると宗教心が湧いてきて、神の助けにすがりたい気持ちに駆られます。また、負の時に限らず、人は深く感動したとき、喜びの時にもそういう方の存在を感じます。

真言宗の僧侶だった西行も「何事のおはしますをばしらねどもかたじけなさに涙こぼる」と歌つてその気持を表しています。人間には魂があり、自然物や目に見える現象を超えた聖なる方の存在を感じる、出会つて語りかけたという深い欲求があるからです。聖書の中には「苦難の日にはわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出そう。あなたはわたしをあがめよう。」詩50・15と書かれています。この神様は天地万物を創り、人(私たち)を創り愛していただくお方です。聖書を読めば読むほど神様の愛が分かってくる、読む人の人生をいっしょに変えてしまいます。

私は若い頃、祈ることなどしたことなく自分のしたい放題に生きていました。しかし結核を患い失意のどん底の時に聖書に出会い、神の愛とイエス・キリストの救いを知つて信じ人生を変えられたのです。相手が誰だか分からない、参拝しても御利益の程は分からないけど……という習慣を見直し、お子さんと共にキリスト教会へお出でになりますようお願いいたします。あなたとご家族の人生が更に祝福に満たされます。(児玉 博之)

親と子のしあわせ

387

私の家族は、主人と高校一年の長女と中学一年の次女、そして大学二年の長男は名古屋にいます。離れて暮らす長男は、今年成人式です。二十年間たたくさんの方々に祈られ支えられてきたことを思うと、感謝でいっぱいです。私たちは、性別は生まれて来るまでのお楽しみしよう、どんな子どもでも神さまが与えて下さった子どもを大切に育てようと祈りました。男の子が与えられました。名前は「共喜」。それは、聖書の「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」(ローマ12・15、口語訳)からつけました。

難産で大きく生まれたのに保育器にしばらくいて心配したこと、一歳の誕生日は入院中で病院で迎えたこと、目が回るほど活発で大変だったことなど、つい昨日の日のように思い出されます。小学校では野球、中学は卓球、高校はラグビーをして親である私も時々応援に行き楽しい時を過ごしました。大学受験が近づいたとき、「唾液が出過ぎるから、精神科に連れて行って」と

言いました。私は、「精神的なものだよ。病院に行くほどのことじゃないよ。出ないと問題だけ出るのは大丈夫」と言うのですが聞き入れません。そこで内科に行きましたら、ちょうど耳鼻咽喉科の先生がおられ診察を受けました。「君ね。大丈夫だよ。センター試験が近いから緊張しているね。みんな同じだよ。どこも悪くないよ。がんばって」と言われ、もちろん薬は無しでした。受験期は親子で緊張した日々を過ごしたことを思い出します。ある方にそのことを話したら、「病院に連れて行ったことが良かったのよ。ただ気のせいと言わないうで受け止めてあげたことが良かったよ」と言われました。

私は、医者に連れて行ってよかった、そして耳鼻咽喉科の先生と話せてよかったと思えました。受験が終わって、一人暮らしをするようになって、初めての母の日にプレゼントが届いたときは嬉しかったです。子どもは、いっばい愛を注いで大切に育てるようにと、神さまが私たちに預けて下さったものです。親も子ども成長させて下さる神さまに感謝しつつこの年も過ごしたいと思います。(相原 幸紀美)



*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

1面写真：高原幸男

678
2017年
1月発行

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。

新約聖書 ヨハネ4:14

発行所 奈良県生駒市門前町七-四〇 日本ミッション
〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九〇一六六四二番

発行人 ファアベイ・D
編集人 日本ミッション編集部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
〒350-0303 新生宣教師印刷部
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 九〇〇円
定価 一部 一八円



新幹線車窓から

新しい年にも

水野源三

新しい年にも
いろいろなことがあるだろうと
思わずほほえみ
なみだぐみ
なぜかと思ひ
どうしてよいかわからない時がある
新しいこの年にも
主よ
豊かにあたえたまえ
新しい恵み
新しい力
新しいみちびき
新しい助けを

瞬きの詩人・水野源三詩集

「わが恵み 汝に足れり」より

(氏は小学四年の時、赤痢による高熱から脳性小児麻痺になり、全身の機能を失う。唯一残された目の瞬きにより詩を作られた。)

神の愛に込める生涯

大津市 上田 恵美子

足の悪い私が、雨の中一時間以上もかけて歩いて行った教会は、本を見て憧れていた高い塔やステンドグラスの教会ではなかったけれど、「来週もおいでね。」との優しい誘いに、続けて通うようになりました。



▲夫、上田正次牧師と共に

私が初めて教会に行ったのは、中学一年生の四月でした。世界少女文学全集を読み、塔がありステンドグラスがある教会に憧れを抱いた私は、教会に行っているという同級生に頼んで、教会に連れて行ってもらいました。

雨の中一時間以上歩いて

その頃は、両足股関節脱臼の為松葉杖をついていました。その日は雨が降っていましたが、友達との約束を破るわけにはいかないと、傘がさせないので雨合羽を着て、一時間以上歩いて教会に行きました。教会は私が憧れていたような塔もステンドグラスもない、進駐軍から払い下げられたかまぼこ兵舎の質素な教会でした。とてもがっかりしたのですが、一時間以上も歩いてやっと着いたので今更引き返すこともできないと思い教会に入りました。

迎えて下さったのは女性の牧師先生でした。その先生が教会学校(主に中学生までの子どもが対象の集会)で「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3・16)という聖書

病気との闘い

私は一九六一年奈良県吉野郡で誕生しました。二歳の時に両足股関節脱臼と診断され、奈良県立医大で最初の手術を受けましたが結果は悪く、その後、電気治療をしましたが治らないと言われ、小学三年の春休みに二度目の手術を受けてから松葉杖生活となり、それから毎年2回手術を受けていました。松葉杖が取れたのは中学二年の二月でした。

恐れの中で

教会に通い始めて一年以上たった中学二年の七月、11回目の手術の時、それまで感じたことがない恐れを覚えた私は、「イエス様、あなたが本当に今も生きておられるなら、この手術室に居てください」と祈りました。すると、はっきりとイエ

新年おめでとうの言葉を。

ス様が「私はあなたと共に、ここにいる。」と応えて下さいました。その時、イエス様は今も生きておられると確信。恐れが消え、安心して手術を受けることができました。

その後、私の足が悪いことをからかう人たちに對して、「事故にあって足が悪くなったなら良いのに」と思っている心が罪だと示されましたが、「私は悪くない。悪いのはからかう人達だ」と思っていました。しかし、イエスさまが、自分を十字架にかけた人達について、「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」(ルカ23・34)と祈っておられるお姿と比べ

自分の罪がはっきりわかり

悔い改めの祈りをしました。その時、イエス様の祈りは私の為であり、イエス様の十字架によって、私の罪は赦していただいたと信じることができ、同時に、からかう人たちへの恨みの気持ちから解放されました。恨む心は消えましたが、物心ついて以来、私はずっと自分の足が悪いことに苦しみ「なぜ?」と言う思いが心にありました。しかし聖書の中に「この人が罪を犯したのではなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」(ヨハネ9・3)という言葉を読んだとき、足が悪いことへの神様に対する疑問が解決し、神様に愛されている確信に満たされ、心に喜びが溢れてきました。そして神様の愛に込める人生を送りたいと願うようになりました。

献身・家族の救い・結婚

大学在学中にみ言葉によって導かれ、大学を卒業後神学校に行きました。在学中に足が激しく痛

くなり、このままここにいたら歩けなくなるのでは、という恐れが気持ちが出てきましたが、神様は「わたしの恵みは、あなたに十分である。」というの、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである。」(IIコリ12・9)と語ってください、助けと力を与えて下さいました。そして今も歩くことができています。感謝です。

卒業後、伝道師として教会で奉仕していた時、出身教会から私の実家に、特別伝道集の案内を送って下さいました。その案内を見て未信者の兄が、「恵美子が、人生をかけて伝えたいと思っている話を親として聞いてきたらどうか」と言ってくれ、両親は教会の集會に出席しました。その集會で母が信じる決心をし、後に洗礼を受け、家にあつた仏壇もお寺に返し、親戚に自分はクリスチャンになったことを証し、忠実に信仰生活をまもりました。その母が亡くなった後、母の形見の聖書を読んでいた兄が信仰をもち洗礼を受けました。父も又病床でイエス様を信じ洗礼を受けました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも

讃美歌21 361番
この世はみな

ダベンポート・バブコック
1858.8.3-1901.5.18

この世はみな 神の世界
あめつちすべてが 歌い交わす。
岩も木々も 空も海も
み神のみわざを ほめたたえる。

この世はみな 神の世界
鳥の音、花の香、主をたたえる。
朝日、夕日 空に映えて
み神みわざを 語り告げる。

この世はみな 神の世界
悪魔の力が 世に満ちても、
わが心に 迷いはなし。
主こそがこの世を 治められる。

※ 都合により漫画はしばらくの間お休みさせていただきます。